Discussion Paper No.　707

河合篤男

名古屋市立大学経済学部

制度的企業家の戦略的実践に係る分析枠組み

（要旨）

March 2026

The Society of Economics Nagoya City University
名古屋市立大学経済学会

戦略的企業家の戦略的実践に係る分析枠組み

2026 年 3 月 30 日

要旨

制度的企業家の概念を巡る多様な議論の中に、経営者による行為を、制度を参照しながらの実践として捉えようとする試みがみられる。例えば、松嶋他（2009）や桑田他（2017）においては、制度という抽象度の高いもの対する経営者による解釈（翻訳）にはバリエーションがあり、その解釈の実践へのアレンジにも多様性が生まれると考える。そこに同型性を超えた変化の源泉があるとみている。関連する議論では、パラダイム概念を企業革新の説明に援用した加護野（2011）でも、抽象度の異なるパラダイム概念の構成要素間の相互作用に着目している。これらの捉え方に依拠しつつ、本稿では、制度と実践との間で、経営者の内部で起こりうるメカニズムを仮説的に検討している。ここでいう実践は、主体性を持つ経営者による解釈とアレンジを想定し、「戦略的実践」と呼んでいる。1 つの仮説は、「知覚された制度的プレッシャー」と経営者の「意志」の相互作用の中から、主体性を伴った「戦略的実践」が導かれるというものである。「意志」の概念は、伊藤他（2021）による「パレーシアステースとしての企業家」像に依拠している。もうひとつの仮説は、「知覚された制度的プレッシャー」と「意志」は、経営者の「キャリア過程」の影響を受けるというものである。とくに「意志」へのこだわりの程度は、幼少期の原体験を含めた経営者の経験に強く影響を受けると考えられる。これら「知覚された制度的プレッシャー」、「意志」、「戦略的実践」、「キャリア過程」の 4 カテゴリーに係るクラスター導出の検討である。